

環境・社会報告書
2008

ご挨拶



環境とともに社会貢献にも 積極的に取り組みます

当社の2007年における社会貢献活動と環境活動結果をまとめた2008年版の「環境・社会報告書」が完成しましたのでご覧いただきたいと思います。昨年までは「環境報告書」として報告させていただきましたが、今年から当社の社会貢献活動の報告を充実させ、「環境・社会報告書」という新たな報告書名とさせていただくことにしました。

私どもは以前から各種の活動を通して積極的に社会貢献活動に努めてまいりました。昨年は中国政府が選出する『社会貢献に優れた外商企業 50社』にマブチ大連工場（中国大連市）が選ばれ、表彰の荣誉に賜りました。これは私どもが企業活動の基本として掲げている「国際社会への貢献とその継続的拡大」という当社の経営理念が国境を越えて高く評価されたものと自負しております。このような活動や実績などについては今までも環境報告書に掲載してまいりましたが、今年から地域貢献のみならず、労働環境、法令順守などの状況報告やその向上に向けての活動も合わせて報告することとし、よりいっそうの社会貢献活動に取り組んでいきます。

また、当然ではありますが、環境に関する活動の強化も図っていかねばなりません。昨今、製品やその製造過程での環境負荷は、R o H S や R E A C H などの指令や規制が強化され、その対応が複雑かつ高度化してきています。その流れに追随するために当社では、環境対応は製品の品質向上であるという方針を定め、一昨年は環境推進グループの主体を品質保証部門に移管させ、昨年は各生産拠点の環境管理責任者会議を品質部門責任者会議と同時に開催し、「環境は品質である」とする考えを全生産拠点に浸透させました。環境問題は大きく捉えれば地球環境ですが、製品を製造して皆様に提供していく立場からしますと、製品の環境品質は当社にとって重要なものです。そこで製品にかかわる環境問題を品質システムに展開することにより、より現場での環境に対する取り組みの強化を図ったものです。

今年、北海道洞爺湖で開催されたサミットでは、地球温暖化などの環境問題が一番大きなテーマでした。この問題に対して当社も以前より企業の社会的責任と捉え、海外の生産拠点を含め、製品製造時のCO₂発生抑制や製品の省エネ化に長年取り組んでまいりました。また、当社社員の家庭においてもその大切さを認識していただき、積極的な参加をしていただくためチームマイナス6%活動への登録を勧めています。私自身も率先して登録をさせていただいています。

次に、当社の今の事業状況を踏まえて述べさせていただきますと、当社の製品はオーディオ・ビジュアル市場を主軸としてきましたが、現在は自動車を中心とした市場へと主軸が移り、それに合わせ、主力製品も大きく変わりつつあります。自動車市場向け製品は形状が大きくなるため、工場規模の拡大が必要になると想定していましたが、一部の工場で規模を拡大することなく生産量を増やすことができました。つまり、CO₂の発生を増やさずに生産の拡大を図ることができたといえます。全ての生産拠点で同じ手法が使えるわけではありませんが、できることは積極的に取り組んでいくという方針によって実現できたものです。

一部では地球温暖化に対する施策は出尽くしたなどとも言われますが、昨今の気象状況を見ますともはや手をこまねていられない状況です。当社の生産はすべて海外の工場であることから、生産拠点におけるCO₂の抑制が重要になります。したがって今後も海外工場を中心に環境対応活動を推進し、CO₂削減のために、環境体制、環境システムをさらに強化していきます。

最後になりますが、この報告書では当社の2007年の社会・環境活動を報告させていただいております。当社の考え方をご理解いただくとともに、忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

マブチモーター株式会社
代表取締役社長

亀井 慎二



表紙の写真について

表紙はマブチモーター本社庭に植えられているケヤキです。

マブチモーター本社庭には各種の樹木や草花が植えられています。これら植物は、地域に緑をもたらし、空気中のCO₂を吸収し、地球温暖化の防止にも貢献しています。

目次

ご挨拶	1
目次	3
会社概要	4
■ 環境マネジメントシステム	5
■ 環境会計報告	7
■ グリーン調達推進	8
■ 環境を考えた製品作り	9
■ 地球温暖化防止の取り組み	11
■ 廃棄物の減量化とリサイクル	13
■ 環境コミュニケーション	15
■ 汚染の対応	17
■ 法規制遵守状況	18
■ 環境データ	18
■ コーポレート・ガバナンス	19
■ コンプライアンス活動	20
■ 生き生きと働くことができる職場作り ...	21
■ 社会貢献	23

2008年版編集方針

マブチモーターは2001年から毎年、「環境報告書」を発行し、これを通じてグループ全体の環境保全活動の実績を社会に報告してまいりました。2008年版では、今までの掲載内容に加えて、社会貢献活動報告を充実させました。これにともないタイトルも「環境・社会報告書」に変更しました。今後もわかりやすい報告書の作成に努め、環境・社会に関する情報開示・説明責任を果たしてまいります。

海外拠点の内、ベトナムのダンナムマブチは、環境マネジメントシステム(ISO14001)認証取得準備中のため、当報告書で掲載している環境実績データの対象に含んでおりません。

報告書の対象期間 / 対象範囲について

対象期間：2007年度(2007.1.1～2007.12.31)
 対象範囲：マブチグループ
 活動対象：モーターの設計、製造、販売・サービスの提供に関わる環境活動及び社会貢献活動の内容

備考：

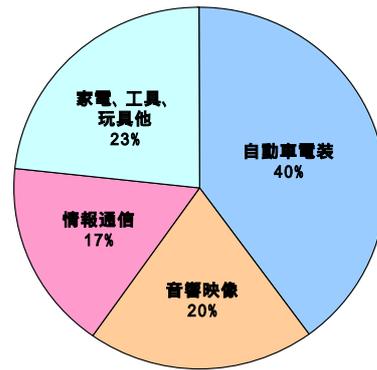
当報告書内での「マブチグループ」とは、2007年12月末日現在、本社及び下記の海外拠点の総称です。

萬寶至實業有限公司(香港マブチ 広東マブチ含)
 華洲電機工業股 有限公司(台湾マブチ)
 萬寶至馬達股 有限公司(高雄マブチ)
 万宝至馬達大連有限公司
 (大連マブチ 瓦房店マブチ含)
 華洲電機(江蘇)有限公司(江蘇マブチ)
 MABUCHI MOTOR VIETNAM LTD.(ベトナムマブチ)
 MABUCHI MOTOR DANANG LTD.(ダナンマブチ)

会社概要

商号 マブチモーター株式会社
 MABUCHI MOTOR CO.,LTD.
 創立年月日 1954年1月18日
 事業内容 小型モーターの製造販売
 資本金 207億円(2007年12月末現在)
 従業員数 本社：約1,000名
 マブチグループ：約45,000名
 (2007年12月末現在)
 代表者 代表取締役社長 亀井愼二
 本社所在地 〒270-2280
 千葉県松戸市松飛台430番地
 TEL 047-710-1111(代表)
 技術センター 〒270-2393
 千葉県印旛郡本埜村竜腹寺280番地
 TEL 047-710-1222(代表)

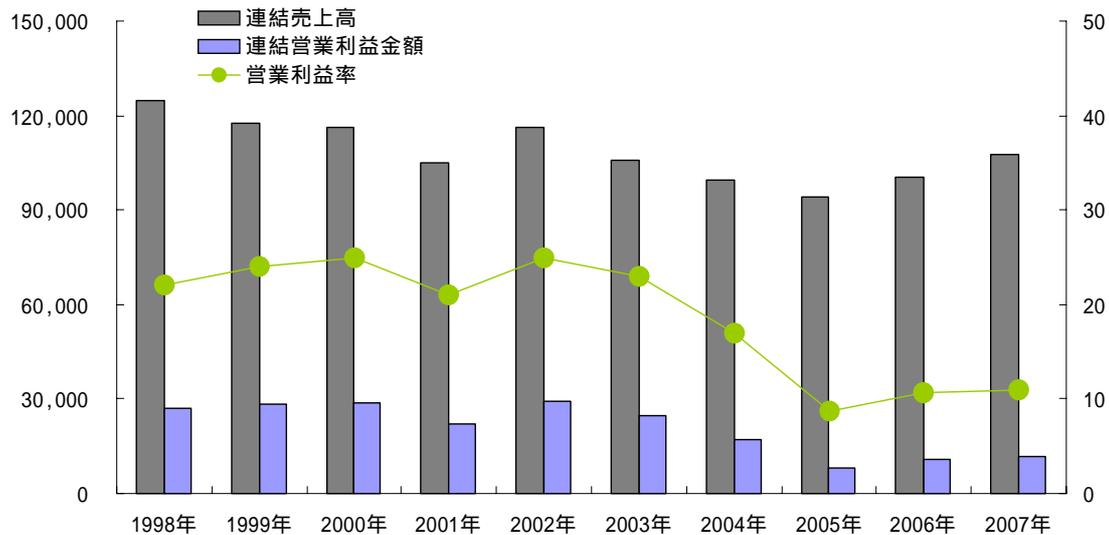
用途市場別売上比率(2007年度)



連結売上高・連結営業利益・営業利益率の推移

(単位：百万円)

(単位：%)



環境マネジメントシステム

当社の環境基本方針は、経営理念を環境マネジメントにおいて具現化したもので、環境問題に関するグループ全体の基本的な考え方を表したものです。

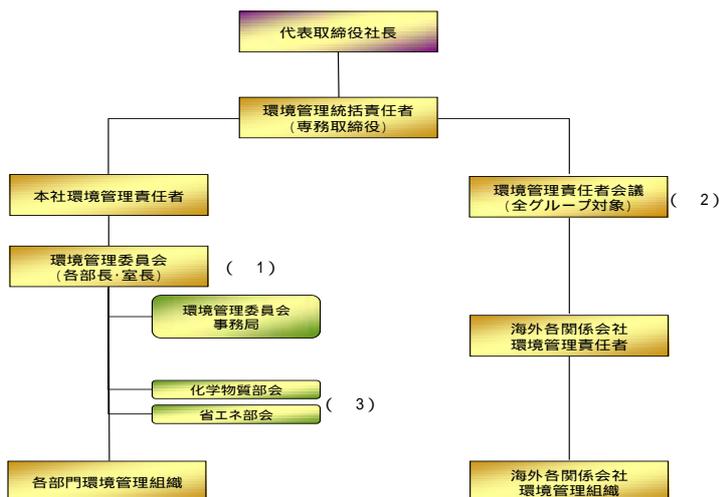
環境基本方針

1. 地球環境に配慮した企業活動を行うための環境マネジメントシステムを確立し、継続的改善に努める。
2. 環境関連の法規制およびその他の要求事項を遵守するとともに、積極的に自主基準を設定し管理する。
3. 限りある資源を最大限有効に活用するために、省エネルギー、リサイクルおよび廃棄物の減量化に積極的に取り組む。
4. 環境に負荷を与える物質は可能な限り代替物質への転換を行う。
5. 従業員の環境に対する意識の高揚を図るため、積極的な教育・広報活動を行う。
6. 環境方針は全従業員に周知するとともに、必要に応じて外部の利害関係者にも開示する。

環境組織

当社は環境経営を企業運営上の最も重要なテーマの一つとして捉え、専務取締役をグループ最高環境管理責任者（環境管理統括責任者）とする環境管理組織体制を構築し、この環境組織のもと、グループ全体の環境マネジメントシステムの導入・運用、各種環境保全活動の推進を実施しています。

環境組織図



(1) 環境管理委員で構成され、本社及び海外関係会社を含むマブチグループ全体の環境に関する問題について審議する。

(2) 本社及び関係会社の環境管理責任者で構成され、環境問題に関する情報共有を促進し環境管理についてのグループシナジーを拡大する。

(3) 環境専門部会は環境管理委員会の諮問機関として設置。本社及び全マブチグループに波及する特定の環境問題について、情報収集、調査、検討を行い、方針案、実施計画案の策定をし、環境管理委員会に提案する。

環境対応の 確実性の強化

近年、E L VやR o H S 指令などの規制に対する対応が本格的にクローズアップされ、製造業としての環境取り組み対象も従来の廃棄物量削減やC O₂ 排出量の削減といった内容の他に、製品における環境負荷物質の流出防止が重要課題として加わりました。

このような背景から、「環境不具合も品質トラブルである」と考え、環境管理組織も次のように変更しました。

1) 環境管理委員会事務局として、品質保証部に、全グループ環境マネジメントシステムの運営を管理する部署「環境保証グループ」を設置。各海外関係会社においても、環境管理組織を品質保証部門へ移管しました。

2) 2007年度から、本社及び海外の環境管理責任者により



2007年に開催したマブチグループ品質・環境責任者会議（中国広東にて）

行われる「環境管理責任者会議」を、「品質保証部門責任者会議」と同時に開催。情報を共有化し、一層の連携強化を図りました。

この会議を通じて、社会は、『製品に対して、品質（Q）コスト（C）納期（D）による評価に環境（E）を加えた評価』を求めている情勢を再確認し、環境対応は企業にとっての生き残りを賭けて取り組むべきテーマであるとの認識が深まりました。

これに基づき、“製品環境事故 = 0”を目指して、グループ全体の環境対応について、実務レベルの討議を行いました。

こうした取り組みによって、当社は、「環境対応の確実性」を一層強化していきます。

ISO14001 システム認証取得について

当社では1999年からISO14001認証取得活動を行い、2001年までに本社及びすべての海外拠点の認証を取得することができました。現在外部機関の監査を受けるとともに、内部監査も定期的に行っています。

2006年8月操業開始のベトナムダナンマブチにおいては、2008年度にISO14001の認証を取得するべく準備を進めています。



2007年度 ISO14001 の外部定期監査における経営者インタビュー

環境会計報告

今年度の変更点

2007年度の環境会計は、次の変更点を踏まえて報告いたします。

1) 2007年度の環境会計データの集計範囲を、今までの本社及び海外関係会社中の一社である江蘇マブチから、本社のみに変更しました。

2) 年度環境コスト実績表に記載される環境会計実績及び経年比に用いた一昨年度実績とともに本社のみに変更しました。

環境効果については次のそれぞれをご参照ください。

a. CO₂の排出量について

「地球温暖化防止の取り組み」(P.11)

b. 廃棄物の排出量について
「廃棄物の減量化とリサイクル」(P.13)

c. エネルギー、水の投入量について
「環境データ」(P.18)

環境コスト

2007年度の環境マネジメント活動における環境投資は約0.6百万円、環境費用は約584百万円、環境コストの合計は約584.6百万円となり、前年度より30%減少しました。

環境コスト減少の要因としては、2005年度末にすべてのモーター製品を、E L

V/RoHS対応製品への切り替えを完了したことにより、関連研究開発、及び材料の代替費用が発生していないこと。加えて、日常の環境マネジメント活動関連費用の支出においても、コストダウン活動を行い、費用節約となりました。

ただし、減少した総環境コストのうち、環境対応モーターの研究開発費用は57%を占めており、環境対応製品の創出に注力している結果となっています。

なお、当社は企業の社会的責任を果たすために、本社及び館林旧工場跡地の土壌汚染浄化処理を継続的に実施しています。

2007年度環境会計

(単位: 百万円)

分類	2006年度		2007年度		主な取り組み内容 (2007年度)	
	投資額	費用額	投資額	費用額		
事業 エリア 内 コスト	公害防止コスト	0.0	8.1		7.1	浄化槽管理、水質汚濁防止のための排水水質分析、排水タンク清掃、ディーゼル車排ガス対策設備原価償却
	地球環境保全コスト	0.0	44.6		32.1	社屋省エネ設備原価償却、運営管理など
	資源循環コスト	3.0	10.1		8.4	廃棄物のリサイクルおよび適正処理、雨水利用のための施設の原価償却
	小計	3.0	62.8	0.0	47.6	
上・下流コスト	0.0	48.8		15.5	グリーン調達システム運営、エコモーターへの切替、梱包材のリサイクルおよび適正処理	
管理活動コスト	0.0	88.3		98.2	環境マネジメントシステムの整備・運用、含有化学物質の調査・分析、環境情報の開示、従業員への環境教育、社内緑化管理	
研究開発コスト	0.0	544.7		334.0	環境負荷物質の使用削減・廃止および省資源・省エネモーターの研究開発など	
環境損傷対応コスト	3.0	101.5	0.6	89.3	土壌・地下水の浄化	
合計	3.0	846.1	0.6	584.6		

グリーン調達

当社は、マブチグループとして製品に含まれる化学物質の管理体制を構築し、取り組んでいます。中でも「グリーン調達」は環境負荷物質を製品に入れない第一段階として、システムを構築し、継続的に運用・改善しています。

グリーン調達システム

当社では、法令、規制、お客様要求に加え、使用禁止物質、制限物質、及び削減物質について、当社独自の評価基準を設け、資材を採用するにあたり、これらの基準に定めた環境禁止物質を含有していないことを確認しています。

確認にあたり、お取引先様には、環境活動調査表の提出に加えて右の書類を納入仕様書に添付して頂く決まりにしています。



納入業者様に対して実施した環境監査

仕入先の選定にあたっては、従来より実施していた品質(Q)、コスト(C)、納期(D)に環境(E)を加え、納入業者様の環境保全活動の取り組み状況を評価して選定していきます。

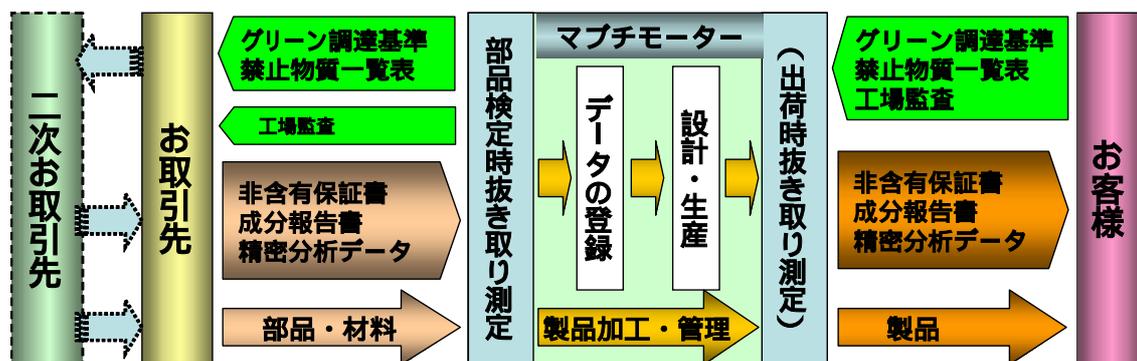
添付書類：
 納入品及び納入品の製造工程上の環境禁止物質非含有保証書
 化学物質成分報告書
 均質物質毎の精密分析データ

2007年度の改善点

EU規制によってPFO S(パーフルオロオクタンスルホン酸)をあらたに即時使用禁止物質に追加、規制対象物質ではないPFO A(パーフルオロオクタン酸)は使用削減物質として、2010年12月31日を全廃目標期日といたしました。

今後も世界の環境要求を先取りして環境にやさしいモーター作りを行うためにグリーン調達を進めてまいります。

グリーン調達フローチャート



省エネ小型モーターの研究開発

音響・映像分野

当社は「小型直流モーター」の専門メーカーとして、操業以来、「より良い製品を、より早く、より安く、安定的に供給する」という基本方針に基づき、さまざまなニーズに応えながら、モーターのもつ新たな可能性を追求し、市場を革新するモーターを開発・提供してきました。

モーターの品質・性能の向上は当然であります。省エネモーターの研究開発も、その重要なテーマの一つとして、長年取り組んでいます。



マブチモーター製品のすべては
ELV / RoHS 指令対応済み

1980年代後半から1990年代後半にわたって、音響・映像分野において、RFシリーズのように、サイズは小さ

くなりながらも同等のトルク性能を維持しているモーターを市場に提供してきました。

音響及び映像分野の省エネ小型モーター



RF-310TA



RF-300EA



RF-400EA

1980年代後半

1990年代前半

1990年代後半

自動車電装分野

2000年代に入り、特に自動車電装市場の省エネモーターのニーズが高まってきました。それに対応し、2007年は、従来型のモーターの重量・体積を1/2とした省エネ型のモーターを開発しました。

モーターを小型・軽量化した場合、使用する素材が

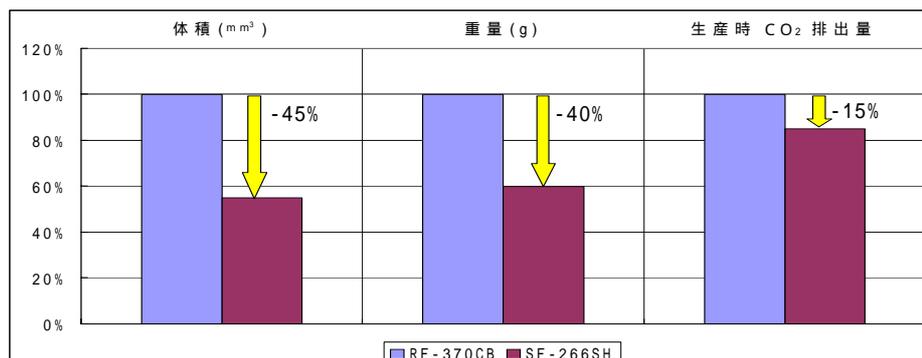
少なくなり、モーター製造時に発生するCO₂も抑えられます。モーターの重量自体が軽量化されることによって、自動車用途などに使用された場合、燃費向上にもつながります。

小型直流モーターの専門メーカーとして長年培ってきた、磁気回路技術、巻線

技術、部品精度技術があつてこそ、モーターの性能（トルク、回転数）を従来型と同等に維持しながらもこの小型化を達成しています。

また、最近問題視されている電磁波環境にも配慮した低電気ノイズモーターとなっております。

省エネ型モーターより低減できる環境負荷概算



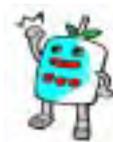
自動車電装分野の省エネ小型モーター



RF-370CB



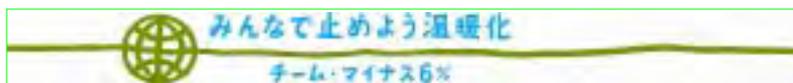
SF-266SH



2000年代

今後も、より一層の省エネ化に向けて、更なる研究・開発を推進していきます。

地球温暖化防止の取り組み



マブチモーターグループの経営理念は「国際社会への貢献とその継続的拡大」です。私たちは21世紀の社会に事業展開していく企業の責務として、「地球環境と人々の健康を害することのない事業活動」を普遍的な行動指針に位置付けました。「チーム・マイナス6%」の活動は、私たちのこうした経営理念や行動指針の実践に役立つものであり、その活動に参画することで、社会貢献をより確実に実現できるものと確信しております。今後もマブチモーターグループが、世界各国で繰り広げるすべての事業活動、社員行動を通じて、温室効果ガス排出量6%削減に向けた様々な取り組みを展開し、将来にわたる国際社会への貢献を維持・継続させることを宣言し、実践してまいります。

当社の代表取締役社長の亀井も「チーム・マイナス6%」の個人登録を行い（No.330）、会社を代表して上記のメッセージを発信しました。

本社の取り組み

当社では温暖化防止活動として、以前より取り組んでいたCO₂削減活動を社員がより身近な問題であることを認識し、会社としてのCO₂削減推進を強化すると共に、私生活においても温暖化防止意識を高めるよう、2007年8月15日に法人として環境省「チーム・マイナス6%」に登録し、チーム員となりました。また、社員も多数参加登録を行っています。

社内では、環境省「チーム・マイナス6%」が推奨する6つのアクションを基に、社員に対して、「一人ひとりが会社で実践したいCO₂削減施策」としての行動指針を示し、全社掲示板や社内イントラネットにて告知、また、月ごとにCO₂排出量のデータを掲示して積極的に社員に呼びかけました。



本社廊下に掲げられている「チーム・マイナス6%」活動のポスター



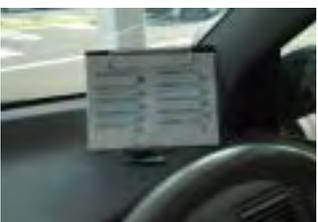
毎月のCO₂排出量のデータを社内に掲示



エア・タオルに貼られた「マイハンカチ」運動シール



エアコンコントロールパネルの傍に貼られたクールビズを励行するポスター



社用車の運転席前方に挟んであるアイドリングストップなどを呼びかけるメモ



水道蛇口の傍に貼られた「節水」を呼びかけるシール

2007年度取り組みの結果：

1. CO₂排出量： 前年比40 t 以上削減
2. 社用車のガソリン使用量：前年比7.7%削減
3. OA紙の使用量： 前年比9.4%削減

2008年も引き続きクールビズやきめ細かな節電によりCO₂削減に取り組んでまいります。

物流分野に

おける取り組み

日本国内の一部のお客様向け製品について、製品生産工場からお客様への納品移動距離・時間の短縮を目的に、神戸港、関西空港を利用しています。

また、国内中部地区のお客様への納品を運送する距離を短縮するため、2008年度中に中部地域倉庫の設置を準備しています。

中部倉庫の設置により、現行本社倉庫からの出荷と比較して運送距離を400km短縮でき、2007年度の運送実績で計算した場合、年間29.4(t)のCO₂排出量を削減できると想定しています。

また、製品輸送時に使用す



本社倉庫からの出荷

るパレットについて、積み重ねが可能なネ스팅パレットを活用する事で、返却輸送時のボリュームが低減され、運送時のCO₂排出量の削減に貢献しています。

海外関連会社の

取り組み

2006年後半から、広東マブチの各工場では、生産性の向上とエネルギー使用量の削減に向けて、生産工程の見直しやレイアウトの変更により工場スペースの使用効率向上の取り組みを開始し、2007年末にすべて完了しました。

この取り組みにより、従業員の移動、部品の運搬距離を短縮し、生産性の向上を実現しました。

そして、工場スペースの縮小と過剰機械設備の見直しにより、工場の電力、水の使用量の削減を実現したと共に、CO₂の削減もできました。



空調効率を高めるために、ビニールシートによる間仕切りを増やし、見通しに影響を与えず、空調・照明用電力の使用量を削減(広東マブチ)

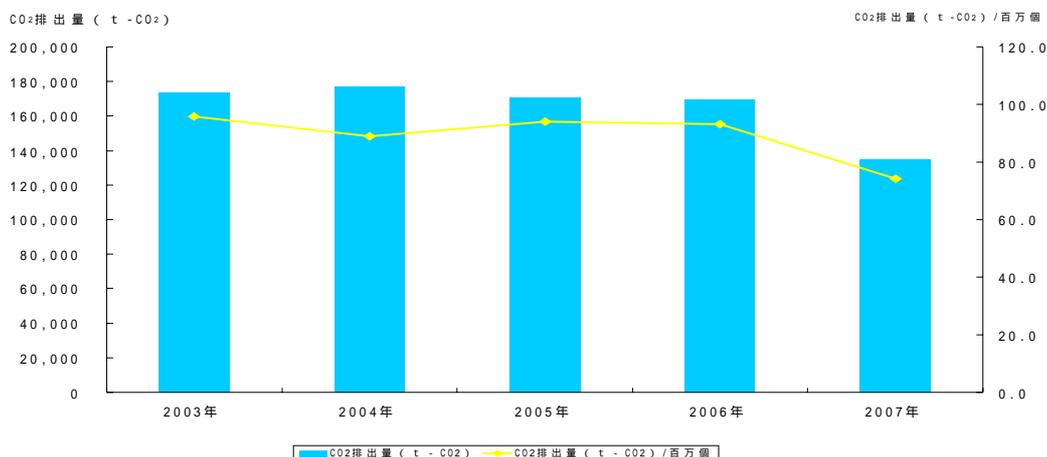


倉庫にある積荷の積み方を調整し、倉庫の使用面積を圧縮したことにより、空調・照明の使用量を削減(広東マブチ)

全広東マブチでの効果

- 1) 工場面積節約 90,787 m²
- 2) 電力使用量の節約 96 万 kWh/月
- 3) CO₂排出量削減量 598 t/月

マブチグループCO₂排出総量と生産百万個当たりCO₂排出量の推移



廃棄物の減量化とリサイクル

梱包材リサイクル

マブチモーターは、廃棄物の減量化を実現するために、製品をお客様に届ける時に使用する発泡スチロール梱包材のリサイクルに取り組んでいます。2007年度に約7tの発泡スチロール梱包材を再利用しました。

近年、繰り返し利用ができる通い箱の使用も推進し、廃棄物の減量化に努めています。

さらに、リサイクルする梱包材の回収輸送時に発生するCO₂の発生量を抑えるために、日本国内をはじめ、お客様に近い場所での回収処理システム構築を推進しています。



リサイクルする発泡スチロール梱包材

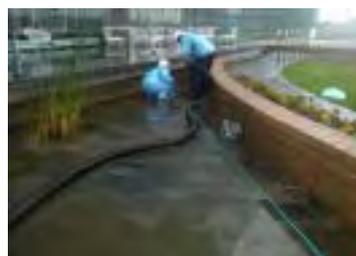


繰り返し利用ができる通い箱

汚泥のリサイクル

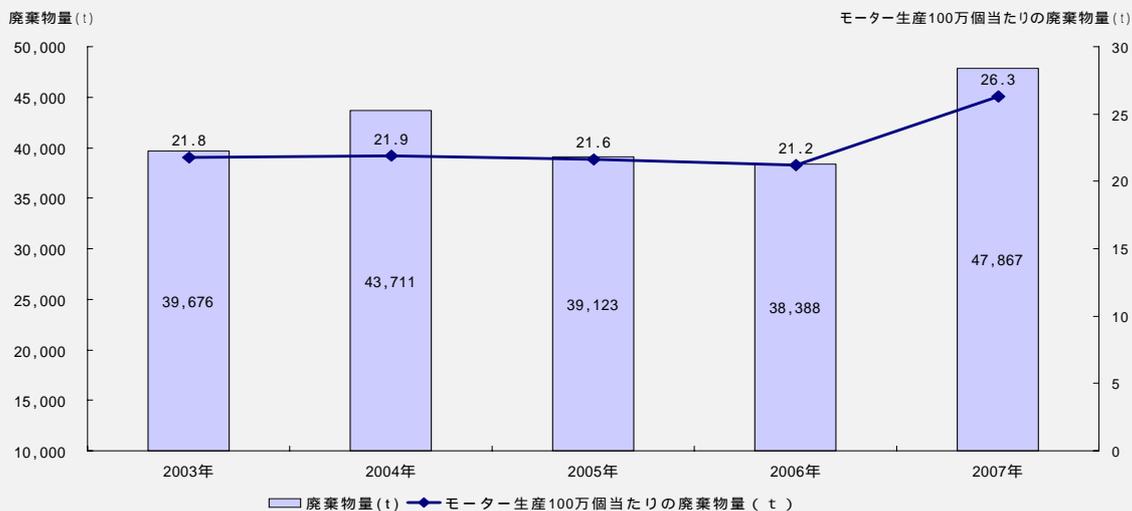
発生した廃棄物を可能な限りリサイクルにすることが、廃棄物量を減らす上で、重要な方策と認識し、2007年度に、本社構内のビオトープの清掃時に、発生した汚泥が環境負荷にならないよう、リサイクル可能な業者を開拓し、4.6 tのビオトープ汚泥を適正処理することができました。

今後も毎年の定期清掃より発生する汚泥をリサイクルし、環境負荷の低減に努めます。



ビオトープの清掃

マブチモーターグループ 2003年～2007年廃棄物総量 及びモーター生産百万個当たり廃棄物量推移



生産工程における廃棄物減量化

モーターには「シャフト」という部品が組み込まれています。

「シャフト」は、モーターの回転出力を取り出し、お客様のユニットに動力を伝えている重要な部品です。お客様に様々な部品を容易に取り付けて頂ける様、シャフト先端に面取り加工を行っています。この面取り工法として、従来は研磨効果のある石を用い先端部分を削っていた為に、多くの研磨屑を含んだ汚泥が発生し、産業廃棄物として処理されていました。

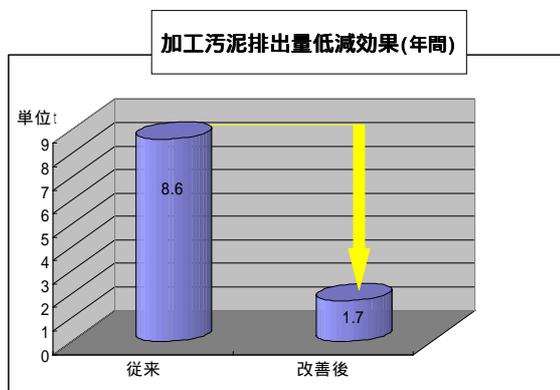
廃棄物減量化の観点から従来の研磨方式から鍛造方式へ転換したことで、今までに年

間約8.6トン位発生していた汚泥の80.4%を減量し、1.7トンになりました。

汚泥の発生がなくなったことにより排水処理装置の簡素化も進みました。今後もマブチグループの環境基本方針に則り、廃棄物の減量化に積極的に取り組んでまいります。



簡素化した排水処理装置



全グループ統計

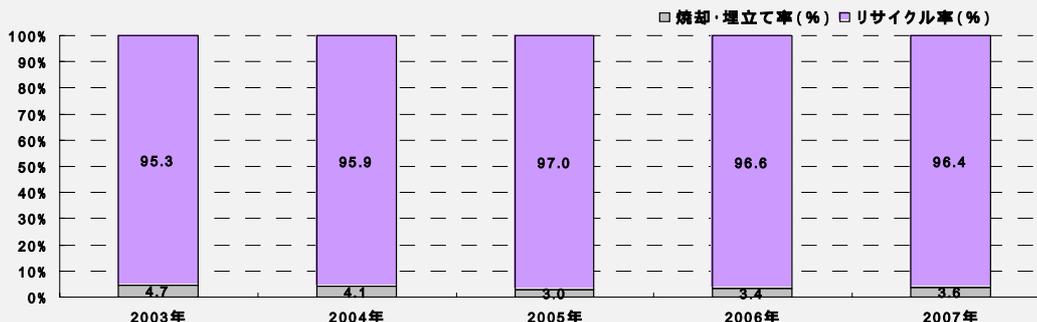
2007年度、海外関係会社において、工場レイアウトの変更・合理化、生産拠点の統合による移転を実施しました。この取り組みにより、生産工程廃棄品(金属、プラスチック、ダンボール、他) 可燃物、不燃物の排出量が増加

要因となり、全グループ2007年度廃棄物総量は前年実績より増えました。リサイクル率も96.4%となり、

前年度より0.2%の減少となりました。

次年度から、この状況の改善を実施していきたいと考えています。

マブチモーターグループ2003年～2007年 廃棄物におけるリサイクルと埋め立て比率の推移



環境コミュニケーション

社員との環境コミュニケーション

社内報の活用

社員への環境情報伝達と環境意識の向上を図るため、社内報を活用しています。毎年6月には環境特集を掲載しています。2007年度の5/6月合併号では、「マブチの環境対応」をテーマに、当社の環境対応の現状や環境対応、環境保証はどうあるべきかについて、社員に紹介しました。



2007年度社内報の環境特集号

イントラネットの活用

社内の環境情報の共有化を図るため、社内イントラネット上に「ECOLOG (エコログ)」というデータベースを作成し、2004年度から、本社で運用をしています。

これには、当社の環境理念・基本方針、環境規程類をはじめ、環境目標・教育・計画・実績や、社内外の環境情報が記録されており、社員の誰もが環境情報を閲覧することができ、随時新しい情報を更新し管理しています。

2007年には海外拠点まで展開し、グループ内社員間の環境情報の共有化が一層進みました。

環境イベントの開催

グループ社員全体の環境意識の向上を図るため、2005、2006年に引き続き、2007年度には「環境負荷物質の管理運用の強化、全廃及び削減の推進」をテーマとした「第3回 環境を考える標語・ポスター作品」の募集活動を行いました。

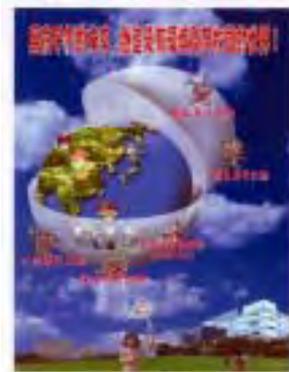
開催期間中数多くの優秀な作品が集まり、マブチグループ従業員の環境負荷物質に対する意識が一層強くなりました。



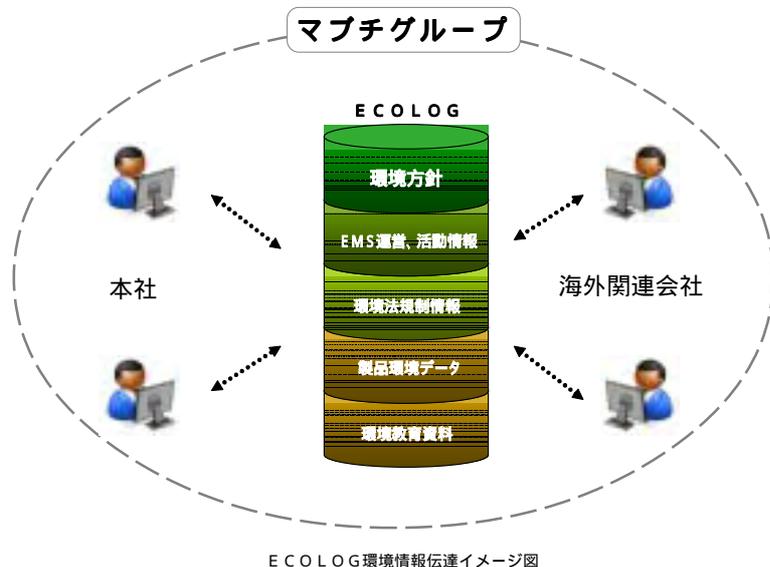
環境管理責任者による賞状の授与

創造しよう
18億個のエコロジー

標語部門一位。(2007年度、マブチグループの年間モーター生産量は約18億個でした)



ポスター部門一位。作者は中国広東マブチ社員で、タイトルは「子供たちの未来の為、環境負荷物質の無い世界を創ろう」



社会との環境コミュニケーション

報告書の発行

当社は、2001年から、毎年「環境報告書」を発行しています。その中に、マブチグループ全体の地球環境保全活動の実施状況、環境負荷排出の実績、今後の活動計画などを社会に報告してきました。

近年、企業の社会的責任が重視される中、2008年版

から、マブチグループ全体の社会貢献活動実績も掲載内容に加え、タイトルも「環境・社会報告書」に変更しました。

今後も、より良い報告書の発行に努めていきたいと考えています。



過去に発行した環境報告書

ホームページの活用

マブチモーターの環境情報を広く社外の利害関係者にも知っていただくため、ホームページに環境情報を掲載しています。

特に製品の環境対応について、常に最新情報を発信しています。



ホームページに掲載した環境対応モーターの説明
<http://www.mabuchi-motor.co.jp>

地域との環境コミュニケーション

当社は地域との環境コミュニケーション活動を積極的に推進しています。

会社所在地地域の環境保護団体、一般市民から、当社の環境活動全般についてのご質問、社内環境配慮施設の見学などの要求に積極的に対応しています。

写真は2007年8月に本社所在地松戸市の環境保護団体アースコン松戸様のご希望に応じて、同団体が主催した「子供環境講座」の一環として、松戸市内の小学4～6年の学童20名を本社に招き、モーター知識、

当社の環境活動状況の紹介と共に、社内の環境配慮施設の見学などを実施している時の様子です。



マブチモーターの環境活動紹介



本社内に設置している風かもめ（太陽光・風力利用街路灯システム）の見学



紹介に聞き入る子供たち

汚染の対応

土壌浄化の取り組み

2002年の本社敷地内の土壌汚染調査により、旧洗浄室付近から土壌汚染が発見されたため、松戸市に汚染状況を届けるとともに、浄化作業を開始しました。

松戸市の指導により、汚染の著しい第一帯水層の土壌を入れ替えるとともに、第二帯水層に対して揚水曝気・ガス吸引法で浄化をしております。また敷地外への流出防止を図るため川下にバリアー井戸を設置することで、対応しています。

2004年には子会社で

あったマブチ精工(株)の工場閉鎖に伴う汚染状況の調査により、土壌汚染が発見されたため、直ちに群馬県に届けるとともに浄化作業に取り掛かりました。

ここでは比較的濃度の高い区域は触媒酸化法により完全浄化を図り、浄化を完了していますが、低濃度区域に対しては川下にバリアー井戸、矢板を設置して敷地外への流出防止を図るとともに、地下水の揚水曝気を行い浄化に努めています。

2007年、本社及びマブチ精工(株)旧工場跡地での土壌浄化に89.3百万円の費用を投入し、地下水約300,000tを浄化しました。

本社の土壌浄化工程で浄化された地下水の一部を、敷地内の植栽用散水として利用することができ、水道水の使用を削減しました。

今後、現在の浄化作業を継続的に実施しながら、より一層の早期浄化のため、各種の促進策を模索していきます。

マブチモーター土壌浄化の流れ(本社の例)



法規制に適合した浄化水は庭の植栽の散水等に使用され、水道水の節約をしています



マブチ本社敷地内に設置されている揚水曝気設備



浄化された地下水の水質を検査するため、定期的に、浄化水サンプルを採取しています



専門業者による、浄化後水質の検査を実施しています

法規制遵守状況

環境法規制遵守状況

当社は「会社の利益や業務に優先して、会社所在国・地域の法令・条例・規則及び国際ルールを守ります」とマブチモーター倫理規範にうたっております。

環境分野においては、自主規制値を設け、法の範囲内であっても、修正を行うシステムとして、より厳しい対応をしています。

2007年度マブチグループにおける環境法規制の遵守状況について、一件法規制違反が発見され、下記の通り適正に処理しました。

事業所	法規制違反内容	是正対策
本社	浄化槽排水でリンが規制値を超えた	・排水にPAC注入量を増加 ・余剰汚泥の引抜量及び頻度の増加

環境データ

マブチグループ2006、2007年度のエネルギー使用量及び廃棄物量の実績は、下記の通りです。

2006年度

種類	単位	本社	香港 マブチ	台湾 マブチ	高雄 マブチ	大連 マブチ	江蘇 マブチ	ベトナム マブチ
購買電力	万kWh	913	9,906	483	926	2,975	1,101	2,567
石油ガス	t	5	17	9	10	470	19	53
都市ガス	t	129	0	0	0	0	0	0
石炭	t	0	0	0	0	10,861	0	0
ガソリン	kl	13	242	12	10	127	39	16
軽油	kl	5	1,342	13	1	23	4	81
A重油	kl	0	0	0	0	2	0	0
総排出物量	t	192	25,108	656	231	5,903	900	5,398
埋立廃棄物量	t	18	683	47	26	66	30	419

2007年度

種類	単位	本社	香港 マブチ	台湾 マブチ	高雄 マブチ	大連 マブチ	江蘇 マブチ	ベトナム マブチ
購買電力	万kWh	918	9,350	543	989	3,176	1,472	2,378
石油ガス	t	5	18	9	8	477	13	68
都市ガス	t	98	0	0	0	0	0	0
石炭	t	0	0	0	0	9,841	0	0
ガソリン	kl	12	248	10	7	15	38	16
軽油	kl	5	1,897	15	1	0	4	31
A重油	kl	0	0	0	0	0	0	0
総排出物量	t	199	31,204	795	725	6,675	3,096	5,173
埋立廃棄物量	t	4	725	54	26	576	147	208

基本的な考え方

マブチグループは、小型モーター事業を通じた「国際社会への貢献とその継続的拡大」を経営理念に掲げ、その実現にこそ当社の存在意義があるものと認識しており、次のような体制を構築、維持することが不可欠であると考えております。

経営上の意思決定と効率的な業務執行が明確な区分をもって行われ、責任の所在が明らかであること

適切な内部統制システムが構築され、運用されていること。すなわち、内部牽制システムと経営監視体制が有効に機能していること

企業文化として、企業倫理とコンプライアンスの実践こそが組織を支え、すべてのステークホルダーに対

する信頼と期待に応える基本であるという認識が浸透し、グループの全役員及び従業員がこれを共有していること

ステークホルダーに対し、公平、適時、明瞭に企業経営情報の開示を行っていること

が構築され、運営されております。

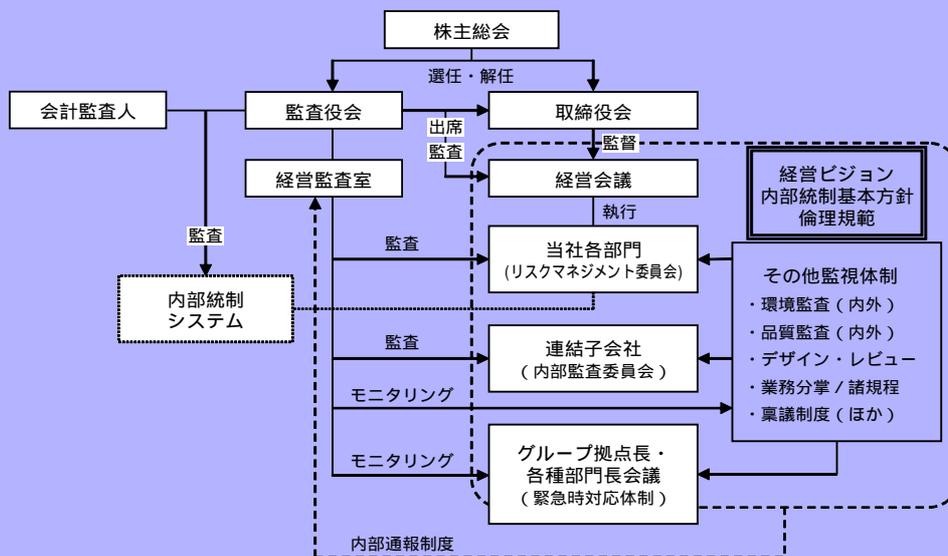
また、当社は「内部統制基本方針」を制定し、リスクマネジメント体制やコンプライアンス体制の更なる強化充実を図っております。

さらに、海外関係会社においても、当該拠点国の法令等に基づく機関等、及びこれを補完する内部組織によって内部統制が実施されるとともに、グループ経営ビジョンを通じてグローバルに企業文化や価値観を共有し、海外拠点経営者会議や各種グループ部門長会議の開催、経営監査室による海外関係会社の業務監査の実施等によって、グループ全体の内部統制機能の向上に努めております。

体制・システムの構築

当社は、監査役制度を採用しており、会社法に規定する会社の機関、会計監査人等が、それぞれ法令に基づく機能を果たし、加えて当社独自で設置する経営会議、経営監査室（内部監査部門）その他の業務執行や内部牽制に係る組織の関与等によって全体のシステム

コーポレート・ガバナンス体制・(内部統制)システム



コンプライアンス活動

倫理規範小冊子

各国・地域の各種法令・条例・規則などを遵守し、社会倫理に沿った事業活動を行うことを大前提とした経営理念「国際社会への貢献とその継続的拡大」の実現を目指して、「倫理規範」小冊子を発行し、本社全役員・社員に配付しました。

また、倫理規範の中でも特に重要な項目についてのルールや手順書を整備し、その内容に応じて必要な対象者（新入社員研修・管理職研修等を含む）に対する教育・研修を行うなど、その周知徹底に努めております。

加えて、内部監査部門が、コンプライアンスに関するルールや手順の遵守状況その他の倫理規範に反する行為等について、グループ会社を含めて定期・不定期に監査を行い、その結果についてトップに報告するとともに、重要な関係会社の内部にも内部監査部門を設置し、コンプライアンスに関する監査結果について



代表取締役社長自ら社員のコンプライアンス教育会で、コンプライアンスの重要性を説明

定期・不定期に報告させるなど、トップマネジメントによる適時・適切な対応が可能となる仕組みを構築しております。

今後は、海外関係会社に対するコンプライアンス活動の展開を強化するとともに、教育・啓蒙活動の内容の充実に努めてまいります。

倫理規範

ホットライン

マブチモーター社内に、コンプライアンスに関する情報の伝達や相談を通常の

ルート（上司や既存の他の相談窓口など）によらず、内部監査部門を通じて行うことができる「倫理規範ホットライン」を設置しています。

また、この制度を利用した場合とそうでない場合を問わず、公益通報者保護法の規定を遵守し、相談したことによる相談者の不利益を発生させないことを会社が約束するトップメッセージを役員・社員に発信しました。

倫理規範基本方針



マブチグループのすべての役員・社員は、会社の利益や業務に優先して、会社所在国・地域の法令・条例・規則及び国際ルールを守ります。取引先を始め、株主・投資家、地域社会など広範な利害関係者への責任を十分認識し、社会倫理に反する行為を厳に慎みます。

法規則、社会倫理の中でも特に注意を要する事項に関しては、規程類などに明確に記載し、周知徹底を図ります。そして、すべての役員・社員は、これらを誠実に守ります。

ワークライフバランスへの取り組み

当社は社員が仕事と私生活を両立し、生き生きと働くことができる環境作りに積極的に取り組んでいます。

本社では近年日本の少子高齢化や人口減少など、家庭や地域を取り巻く環境変化に対応するために、「ファミリーフレンドリー施策」や「定年後再雇用制度」を導入しています。



当社社員は子育て支援制度を活用し、仕事と私生活を両立しています

ファミリーフレンドリー施策

- 1) 社員が仕事と子育てを両立できるよう、「子が3歳に達する日まで育児休業の取得を可能」としたのをはじめ、育児休業中の社員に対し、「賃金の一部支給」及び「育児休業中の自己啓発支援」などの制度を導入
- 2) 子育てに関する支援としては、「不妊治療のための低利融資制度」や、「配偶者出産時休暇制度（有給5日間）」、及び「ベビーシッター育児支援割引券の利用」などの制度を導入
- 3) 社員が仕事と介護を両立できるよう「一つの要介護状態につき2回まで、合計365日間の介護休業取得を可能」としたことをはじめ、「介護休業中の自己啓発支援」や「勤務時間短縮や所定外労働免除などの措置の導入」及び、「介護割引券の利用」などの制度を導入

定年後再雇用制度



定年後再雇用された社員が後輩に仕事のノウハウを伝授

2001年から導入している「定年後再雇用制度」にて、2005年度以降、希望者のほとんどが再雇用され、ノウハウ・技能の継承を行い、ともに生き生きと働くことができる職場作りを行っています。

社員とのコミュニケーション

「組織の垣根を越えた相互のコミュニケーションを図り、経営者と社員、さらに社員の家族までが有機的なつながりを持って、結束

力を強め、心を通じ合わせる」ことを目的として、2006年及び2007年度ともに、社員（会社OB、派遣社員、請負会社を含む）及

び家族約1,000名を招き、本社グラウンドにおいて、「ガーデンパーティ」を実施しました。



2007年度ガーデンパーティ

海外拠点の取り組み

各海外拠点においても、人は企業にとって最も重要な経営資源と位置づけ、従業員が生き生きと働くことができる環境作りに取り組んでいます。

広東マブチの取組み

中国広東省深セン市に位置する広東マブチ第二工場は、労使関係の適切な対応を評価され、2007年9月、全国レベルの公示で、「全国模範労働関係和諧（調和）企業」として表彰されました。

中国広東省21都市において僅か16社、そして深セン市では唯一選ばれた企業として、北京で行われた認定式にて、国より表彰状を授与されました。



受賞報告会及び賞状

大連マブチの取組み

大連マブチでは、社員のために、法定の保険の他に、会社補助で、団体不慮事故傷害保険及び団体入院補助保険に加入しています。

社員の処遇を合理的、公平に行うために、経営側と組合側代表により構成する「労務協議委員会」を設置し、労使関連の問題を共同で協議、その結果を実施しています。

人材育成のため、社内に各種の教育・訓練プログラムを準備し、専門職から管理職まで幅広い人材を育成しています。



労務協議委員会の開催



社内技能計競技優勝者への表彰



会社が後援する寮生の合同誕生日お祝い会



社員の健康を促進するため、地域での休日歩行活動への参加の支援

社会貢献

全中国で「社会貢献の優れた外商企業50社」に
大連マブチが選出されました



大連マブチ総経理古今敬之が表彰式にて（左から）



表彰盾

2007年に、大連マブチは、中国外商投資企業協会が主催する「社会貢献の優れた外商企業50社」に選出され、11月7日に北京市人民大会堂にて、表彰を受けました。

この「社会貢献の優れた外商企業50社」は2007年が第一回目となります。

中国の経済成長と社会貢献に寄与している外商投資企業を表彰することにより、更なる企業の質的向上を推進するとともに企業の健全なる発展と調和の取れた社会を形成することを目的に創設されました。

当社受賞の理由としては、1987年の設立以来、マブチグループの経営理念である「国際社会の貢献とその継続的拡大」に基づいた企業活動を実践し、法令遵守、環境保全への取組み、健全な労使関係の構築、地域・教育支援活動など、さまざまなステークホルダーの調和の取れた活動が評価されました。

いろいろな地域支援活動

マブチグループでは企業市民として、地域との共存・共栄を図り、豊かな社会へ向けての活動を実施しています。

地域の清掃活動

地域住民の生活向上並びに環境整備のために、会社周辺の清掃活動に積極的に参加しています。



上図は江蘇マブチ社員による会社周辺の清掃（中国江蘇省呉江市）

下図は大連マブチ社員による会社周辺の清掃（中国大連市）



訪問及び介護ボランティア活動

地域へのボランティア活動に取り組み、ひとり暮らしの老人や孤児院・敬老院への訪問・介護の支援活動に積極的な参加をしています。



広東マブチ第二工場のボランティアが地元の福永老人看護所へ支援活動



ベトナムマブチがビエンホア孤児院への季節贈答品（月餅）寄贈

献血活動

社会への人道支援として、積極的に献血活動を実施し、いろいろな表彰をいただきました。

2007年10月に日本赤十字社から本社に対して、長年にわたり献血活動を継続的に実施していることを評価され、「銀色有功章」の表彰を受けました。

本社社員の献血



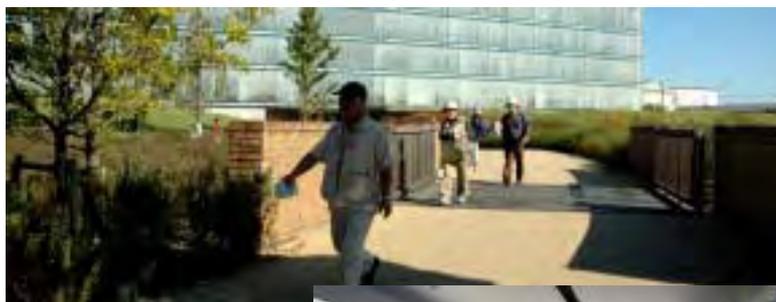
江蘇マブチ社員の献血

施設の地域開放活動

地域住民とのコミュニケーションを大切にするため、会社所有施設を可能な限り、地域住民に開放しています。

本社では、社員の福利厚生施設であるテニスコートを通年で近隣中学に開放していることをはじめ、地域小中学生の社内見学、及び他の地域市民活動に施設の開放などの活動を実施しています。

各海外拠点も、会社施設の地域開放などの活動を行っています。



2007年10月に、新京成電鉄株式会社が主催したイベント「新京成沿線健康ハイキング」への協力として、本社ビルの一部及びビオトープを参加者に開放しました。

上図は本社ビオトープを通過中の参加者達

右図は本社ギャラリーを見学中の参加者達



教育支援活動

当社は青少年をはじめとする多くの人々に「ものづくり」の大切さ、素晴らしさを体験してもらい、時代を担う若き技術者の育成と科学技術の発展に寄与する支援活動を行っています。

ロボットコンテスト協賛

当社は2002年より毎年「アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト」、「ABUアジア・太平洋ロボットコンテスト」に協賛（資金援助）し、大会運営支援やモーターの提供などを行なっています。

2007年度のABU大会は、ベトナムのハノイで開かれ、アジア・太平洋の18の国と地域から選抜された19チームが出場しました。



上図は2007年「ABUアジア・太平洋ロボットコンテスト会場（ベトナムハノイ）」

右図はマブチ賞を獲得したマレーシアチームへマブチモーター社長の亀井より、賞状を授与（ベトナムハノイ）」



奨学金と学校への支援

大連マブチは所在地域の庄河、瓦房店、普蘭店小学校を自社の支援対象小学校と決めて、毎年学生に対する奨学金の提供と工場見学の受け入れなどの支援を行っています。

2007年度はさらに鞍山市に新一校を追加しました。

小学校の他に、大連マブチが地域の中学生（年間9名）高校生（年間120名）大学生（年間16名）障害者学生（年間16名）に対しても、奨学金制度を設立し、支援を提供しています。



大連マブチの新しい希望小学校の鍍入れ式



大連マブチ総経理と2007年度大学へ行く奨学生達

ベトナムマブチはドンナイ工業技術中学に対して、奨学金を提供しています。2007年度に対象者を従来の40名から73名まで拡大しました。



ベトナムマブチ北橋総経理より2007年度奨学金獲得者へ奨学金を授与（ベトナムドンナイ省）

児童向け科学教育支援

当社は、1983年より科学技術館（東京都・千代田区）に常設展示を行っており、2003年に「モーターズワールド」として常設展示コーナーをリニューアルしました。小学生を対象にモーター

の基本原理や、モーターを使った工作などを紹介しています。

さらに、工作ガイドブック「モータライゼーションガイド」の発行、各種工作イベントへのモーター無償

提供などで、子供達に「ものづくり」の楽しさを伝えています。

また、本社・海外各社では会社（工場）見学会を開催し社会勉強の機会を提供しています。



科学技術館「モーターズワールド」コーナー



本社見学でモーター原理の説明を受けている松戸市立松飛台小学校2年生



大連マブチ社内見学をしている小学生



当社韓国販売会社による地元小学校へのモーター授業支援



当社欧州販売会社によるフランクフルト日本人学校への教育支援



当社上海販売会社による地元小学校へのモーター授業支援

「親子で作る電気自転車エコランレース」への支援

2007年8月に、電気自動車でCO₂削減を目指す日本環境エネルギー協議会が、電気自動車技術への理解の裾野を広げる目的と、もの作りの楽しさを味わってもらおうと、子供達を対象に「親子で作る電気自転車エコランレース」と題した電気自転車製作教室が仙台で開かれました。

当社がこの活動に製品の提供と技術の指導支援を実施しました。



上図は制御回路の製作

右図は日本環境エネルギー協議会の齋藤会長より表彰





お問い合わせ先

管理本部総務部施設グループ

〒 270-2280 千葉県松戸市松飛台 430 番地

TEL : 047-710-1230

FAX : 047-710-1141

E-mail : kankyo@mabuchi-motor.co.jp

<http://www.mabuchi-motor.co.jp>